

「学校における業務改善」

「枕崎市立別府中学校」の実践紹介

効果が期待される取組

基本理念の共有化で、組織的・自立的な職場の確保と生徒対応への余裕を入手！

実施前の課題

- 偏った校務分掌等により、仕事量に個人差があり、それを理由に遅くまで残る職員がいた。
- 遅くまで残る時間が不平不満や愚痴を言い合う場になる傾向があった。
- 全職員が課題を持って取り組む風潮がなかった。
- ICT環境の整備が進まない状況の中で、事務処理時間の短縮を目指す雰囲気なかった。



実施後の成果

- 長時間勤務の是正が図られてきた。(時間外勤務月45時間以内)
- 風通しの良い職場の雰囲気醸成されてきた。
- ワークライフバランスの適正化(校務分掌の公平化)が進んだ。
- プラン達成に向けた職場環境が整ってきた。
- 業務の優先順位を見極める力が育ってきた。
- 仕事量に応じて応援・協力する体制が確立されてきた。

業務改善を目指した取組の詳細

- 週の中日の水曜日を定時退校日と決め、ノー部活動デーと重ねることで、職員がかなりリフレッシュすることを実感できた。(17:00には完全セット実施継続中)
家族や健康を大切にする風潮が一気に広まり、職員の仕事への集中力が増した。その影響は他にも広がり、組織全体がお互いの協力体制や計画性を重視するなど、業務の改善が進んでいる。適切なコミュニケーション、関係性も維持できており、支障は生じていない。
- 出退時刻記録カードが個人入力で煩雑であったが、ICT支援員に相談し、一括管理ソフトを提供してもらった。出勤簿の横に専用パソコンとバーコードリーダーを置き一瞬に入力ができる。職員が時間を意識して業務を行う変容が見られた。
全員が同じ時刻に退校できることで、問題の特定と共有、優先付けされた課題へのアドバイス等が盛んである。管理職の業務負担の軽減にもつながっている。
- 文書作成について、校内で使用する資料であれば、できるだけ簡素化を目指し、内容の評価については相互に補完し合うことで、担当者の負担感を軽減させた。
- 「業務の細分化によるすき間時間の活用のすすめ」で、効率的な業務を行う習慣を推奨している。また有限な業務時間に慣れることで、時間管理能力が高まっている。
- 職場の環境整備を進めている。(デスク、パソコン周り、データファイルの整理整頓)
- 全般的にやらされた業務改善ではなく、自分たちの職場を健全にという共通理解が保たれている。その動機付けとして「適正化のための自問自答」、「生徒と向き合う余裕の捻出・確保」、「ワーク・ライフ・バランス」という観点を大切にしている。
- PTA、おやじの会、学校応援団、一園二校(幼・小・中)連絡協議会等との連携による支援を強化している。



今後の課題、計画

- 本校の特色ある教育活動である朝ランや朝ボランティア等、時間外活動をどうするか。
- 人的支援の措置、事務の負担縮減(給食費や学年費等)、教材の共有化をどうするか。